

しずく 議会だより

○平成20年7月24日発行

発行／栗石町議会

〒020-0595 岩手県岩手郡栗石町千刈田5番地1

電話019-692-2111 ファックス 019-692-2828

ホームページアドレス <http://www.town.shizukuishiiwate.jp/>

編集／議会広報編集特別委員会

No.66

●今号の主な内容

6月定例議会のあらまし…2~4

特集 議員発議で基金条例を制定…5

町の考えを問う

一般質問 7議員が登壇…6~12

追跡リポート…13

常任委員会の活動報告…14~16

議員クローズアップ…17

皆さんからのご意見／ふるさとへの便り 32…18~19

6月定例会のあらまし



議員発議案を全会一致で可決した6月定例会（ふるさと雫石応援基金条例採決の様子）

議員発議で基金条例を制定

平成20年第2回定例会は、6月6日から13日まで8日間の会期で行われました。

本定例会では、平成19年度一般会計および特別会計繰越明許費繰越計算書の報告案件が2件ありました。

税条例の一部を改正する条例や平成19年度一般会計補正予算などの専決処分に関する承認案件は、4件ともすべて承認されました。

また、一般質問は2日間にわたり7人が登壇し、町財政や中心商店街活性化、農業振興、災害復旧、後期高齢者医療制度など18項目にわたり町当局の考えをたしました。

さらに、平成20年度一般会計補正予算や監査委員条例および住宅管理条例の一部改正、

町道路線の廃止や認定など計8案件はすべて原案どおり可決しました。

請願2件について、タクシー事業の規制緩和の見直しを求める請願を採択し、介護職員の待遇改善については、閉会中の継続審査としました。

議員発議ではふるさと納税制度の受け皿となる、ふるさと雫石応援基金条例など2件を可決（詳細はP5へ）。

人事案件では、固定資産評価審査委員の選任に同意したほか、選挙管理委員および同補充員の選挙、岩手県後期高齢者医療広域連合議員選挙を行いました。

■条例（主なもの）

- 雫石町税条例の一部を改正する条例の専決処分に
関し承認を求めることについて

地方税法等の一部を改正する。法律の施行に伴い、
一部改正を必要とするものです。（全会一致で可決）
この他専決処分案 3 件についても承認可決してい
ます。

- 雫石町監査委員条例の一部改正について（全会一
致で原案可決）

地方自治法の規定との整合を図るなどの整備をす
るものです。

- 雫石町営住宅等管理条例の一部改正について
（全会一致で原案可決）

町営住宅に暴力団員が入居することを防ぐなどの
所要の整備を図るものです。

■町道路線の廃止・認定



県道雫石東八幡平線玄武工区の完成に伴い町道路線の廃止
と認定が行われました（4月2日の館篠橋開通式の様子）

- 町道路線の廃止について（全会一致で原案可決）

県道雫石東八幡平線玄武地区の付け替え工事に伴
い、県道の一部が町道西根線と重複していること
から、道路区域変更のため当該町道を廃止するも
ののです。

- 町道路線の認定について（全会一致で原案可決）

西根線について終点位置を変更し、町道認定する
ものです。また、用ノ沢 6 号線については、新た
に町道認定するものです。

■補正予算

- 平成20年度雫石町一般会計補正予算（第 1 号）
（賛成多数で原案可決）

補正前の額	補正額	計
78億5,000万円	4,250万円	78億9,250万円

補正予算の主なもの

- ▶ 社会福祉協議会運営費補助金 738万8千円
- ▶ いわて希望農業担い手応援事業費補助金 464万2千円
- ▶ 極楽野地区地下水取水施設購入費 407万7千円
- ▶ 地域伝統芸能等保存事業委託料 399万円
- ▶ 農地・水・環境保全向上対策活動支援負担金 311万7千円

- 平成20年度雫石町一般会計補正予算（第2号）
（全会一致で原案可決）

補正前の額	補正額	計
78億9,250万円	100万円	78億9,350万円

■請負契約

- 鶯宿地区公園整備工事の請負契約の締結に関し議
決を求めることについて（全会一致で原案可決）

工事名	鶯宿地区公園整備工事
工事場所	鶯宿地内
契約金額	1億1,025万円
請負者	岩井建設株式会社



水辺公園の完成イメージ図

■人 事

○雫石町固定資産評価審査委員会委員の選任に関し 同意を求めることについて

委員の任期満了に伴い、次の方に決定しました。
任期は 4 年間です。



つちどい もとひこ 氏
土樋 丕彦 氏
(68歳) 小松行政区

○雫石町選挙管理委員会委員および同補充員選挙

委員・補充員の任期満了に伴い、次の方々に決定
しました。任期は 4 年間です。

委 員



はたけやま よしのり 氏
畠山 義則 氏
(78歳) 中町一行政区



まがりや ち けいさく 氏
曲谷地 啓三 氏
(69歳) 中南行政区



はやしざき まさくに 氏
林崎 正邦 氏
(58歳) 林崎行政区



よねざわ よしこ 氏
米澤 ヨシ子 氏
(59歳) 赤滝行政区

補充員

ささき ちえ 氏 (69歳)	上町三行政区
ながさか たけし 氏 (69歳)	下町三行政区
にしだ ほういち 氏 (59歳)	上西根行政区
やまつ だ いさお 氏 (66歳)	山津田行政区

■議員発議

○ふるさと雫石応援基金条例の制定について (全会一致で可決)

ふるさと納税制度などに基づく寄付金を広く募り、
どこからでも雫石町を応援できる制度として、ふ
るさと雫石応援基金を創設する条例を制定しよう
とするものです。

○タクシー事業の規制緩和の見直しを求める意見書 の提出について (全会一致で可決)

国において、下記事項を実現するため具体的対策
を講じられるよう、衆議院議長、参議院議長、内
閣総理大臣、国土交通大臣に要請します。

- 1 タクシー事業の実態を調査すること。
- 2 新規参入および退出基準を見直し、需給調整
を行うこと。
- 3 同一地区・同一料金とすること。
- 4 緊急調整地区、特別監視地域の指定基準を見
直すこと。

こうなりました 請願・陳情 皆さんからの

本定例会では請願 2 件の提出があり、担当する常任委員会に付託して審査し、本会議で次のとおり全会一致で決定しました。

○「タクシー事業の規制緩和の見直しを求める請願」が本定
例会に提出され、総務常任委員会に審査が付託されました。
同委員会から「採択」する旨の報告があり、全会一致で採択
と決定しました。

請願者／岩手県タクシー協会岩手紫波支部 支部長
伊藤 昌幸 ほか 2 団体

請願の趣旨／規制緩和により深刻な経営環境となっており、
それに伴う運転者賃金の低下、交通事故の多発など
が危惧されており、この現状を国の関係機関に意見
書として送付してほしいこと。

○「介護職員の待遇改善についての請願」が本定例会に提出
され、教育民生常任委員会に審査が付託されました。同委員
会では、福祉事業全般についてさらに精査が必要とのことから
「閉会中の継続審査」する旨の報告があり、6 月定例会終
了後も引き続き審査することとなりました。

請願者／岩手県介護老人保健施設協会
会長 木川田 典彌 ほか 1 団体

議員発議で基金条例

●ふるさと雫石応援基金●

—政策的発議は、当議会では初めて—

6月議会最終日の6月13日、総務常任委員会（大村昭東委員長）から提出された「ふるさと雫石応援基金条例」の制定について、議員発議案を全会一致で可決しました。今回の基金条例のように、議会運営以外に関する政策的な発議を議会が行うということはあまり例がなく、当議会では初めてのことです。

●議員発議案・条例作成の経過

本年4月施行された地方税法の一部改正により、ふるさと納税制度がスタートしました。

自分が生まれ育った故郷に貢献したいと思う人や、何かの縁で自治体を応援したい人たちが、寄付をしたときは、その人の個人住民税の税額控除が拡大され、寄付された自治体の財政も助かるという制度です。

当議会では、この制度を取り入れながら、新たに町づくりをする基金条例を創設するために、地

方自治法第112条および会議規則第14条の「議員の議案提出権」に基づき、総務常任委員会や議会運営委員会、議員全員協議会など繰り返し開催し、草案作成や課題協議を図るとともに、町当局とも共通の認識で体制を整備する必要があり、数回におよぶ事前協議をして提案されたものです。

早くも、「二元代表制の一翼を担う議会人として、時世をとらえ議員発議を」と活発な意見も出されています。

●条例の設置目的は

町づくりの使途目的に対して寄付金を広く募り、これを財源として「ふるさと雫石応援基金」を創設し、多様な人々の参画により、新しい住民

参加型の創造力豊かで活力があり、安心して暮らせる町づくりを実現しようとするものです。

●寄付者は使途指定できます

- ふるさとを担う人材育成、子育て支援のために
- ふるさとの自然と環境保全のために
- 福祉向上および健康増進のために
- 定住交流促進のために

など、寄付者が使途を選択することになりますが、町では使途指定をしないときは地域コミュニティ形成推進事業に活用していく考えを示しており、運用状況については年度ごとに公表することになっています。



質問者／
た な か え い い ち
田中栄一 議員

中央公民館舞台照明設備に関して

町長／公正な競争の原理を求める

田中議員 本年は中央公民館舞台照明設備の更新期に当たり、町は更新する方向で進んでいる。しかしその支払いをなぜ起債（借入金）でなく、賃貸借契約（リース契約・総額1億8,631万7千円・年利14.16%）で行うのか。

72回払いのリース契約に基づく債務負担行為は、財政状況を判断する指標「実質公債費比率」の中になぜ算入されないのか、当町の実質公債費比率は、平成18年度は18.7%（過去3年間の平均）、19年度は18.2%となっている。公債費比率が18%を超えると、公債発行には知事の許可が必要となるため数値に配慮しているのか。

また、舞台照明設備の発注に当たり、随意契約か競争入札なのか、について某業者から議会あてに、密室での業者決定の疑念を抱かせる事態を招くのではないかという内容の意見書が提出されている。町長の見解はどうか。

町長 中央公民館照明設備の更新については、起債対象にならないことであり、起債対象事業でないということでご理解をいただきたい。意図的に公債費比率を下げるということではない。この制度が発表になった時点においては、ピーク時にあって、高い比率

になっているが、20年度には完全に18%を下回り、今後たとえば健康センター（診療所）などの建設による新規の地方債（借入金）もあるが、総体的には減っていく計画である。

照明設備工事にに関して意見書が出てくるということであれば、町としても公正な競争の原理を働かせる部分も必要ということ検討を加える。

認定こども園の設置を

田中議員 幼稚園と保育所を一体としてとらえ一貫した総合施設の設置を可能にする法律「認定こども園設置法」が施行された。当町においても教育と保育を一体的に提供する「認定こども園」の設置を考えてはどうか。

町長 現在のところ「認定こども園」の設置予定はないが、今後該当法人に本制度の周知を図りながら検討を促したい。



中央公民館のステージで2月10日開催された
第5回町民劇場「花染めのたすき」の様子

質問者／
大村昭東 議員
おおむらしょうとう



格差社会でのまちづくりは

町長／地域ごとに差異が生じるのは当然

大村議員 働き方の違いが所得や生活の格差を生み、子どもの夢にも格差を生じているが、格差社会をどう認識し、まちづくりをすすめているか。

町長 いかなる差をもって格差を論ずるか共通理解はなく、地域ごとに差異を生じるのは当然であり、総合計画でまちづくりはすすめている。

大村議員 人口集中格差、教育格差など格差時代の人材育成は。

町長 総体的な施策を打ちながら、人材育成をすすめる。

大村議員 格差時代の生活維持向上のため、もっと町民の声に耳を傾けるべきでないか。

町長 住民目線の、住民のための職員になるよう努力する。

大村議員 中心商店街活性化対策を集客という視点から見直しては。

町長 まちづくり会社の設立は断念したが、町中心部の「町おこしセンター」と雫石駅銀河ステーションにコンビニ機能を備えた集客拠点施設を整備し、集客に最善の努力をする。

大村議員 中心商店街空き店舗を商業活動やまちおこしに利用したいという町内外の人達への情報発信はどうなっているか。

商工観光課長 町としては何も情報発信していないし、空き店舗のデーター整備もしていない。商工会が情報提供している。

大村議員 銀河ステーション内の加工場の加工原料の調達などの実施計画はできているか。

農林課長 実施計画はまだ作

っていないが、ワーキング中である。

大村議員 住民の声である議員の質問をどう取り扱っているか。

町長 議会の大切さを十分理解し、多くの住民の意向を把握したい。

大村議員 財政格差について委託事業を見直すべき。無駄が多すぎる。

町民 あるべき姿を検討して行かねばと思っている。

大村議員 人口減少対策について、東京方面との交流定住促進策は。

町長 まず第一歩は交流人口の拡大ということで頑張りたい。

大村議員 東京都世田谷区と群馬県川場村は縁組み協定を結んでいるがどう思うか。

町長 そういった面にもさらに力を入れない。

大村議員 教育格差をどう受け止めているか。

教育長 経済環境と生活規律の所を吟味し、地域一体で考えたい。

大村議員 過去数年の農業振興策と結果の食い違いをどう評価し、これからの農業振興にどう生かしているか。

町長 個別の評価はしていないが、行動計画の中で課題を整理している。

大村議員 コテージむらの3haのナタネは収穫できるのか、雑草ばかりだが。

農林課長 土質が悪く、様々な人達から指摘されている。県農業公社に適切に管理していただいているとおもっている。



質問者／
かとう ますみ
加藤真純 議員

公害防止協定締結の進捗状況は

町長／住民納得の協定締結へ協議推進

加藤議員 町内企業との公害防止協定は、地域住民の健康を保護し、生活環境を保全するために結ばれるものである。川井林業は、まだ試運転中にもかかわらず地域住民から騒音被害の訴えがある。騒音規制地域でない無法地域だからこそ、地域の実情にあった規制が必要と考えるがどうか。また、規制地点は、工場の敷地境界線ではないのか。

町長 A類型の2車線以上の車線を有する道路に面する地域の基準値で考えているので、旧ファミリーオ近辺としている。地域住民から苦情があることから、川井林業に対し、住民生活に配慮した形で試運転等を進めるよう要請した。

加藤議員 大気汚染についての役場協定案は、川井林業が提示している計画値より大幅に緩く、また、滝沢村ごみ焼却炉よりも、ばいじん：10倍、硫黄酸化物：20倍、窒素酸化物：2.5倍と緩いものになっている。設備は異なれど排出されるものは同じである。

何のために、これほど緩くするのか、また、これで住民の健康と生活環境が守られると考えるのか。

町長 ボイラーと廃棄物焼却炉は法規制がまったく異なり、同列には比較できない。

法規準に照らして、当該ボイラーの設置届が県に受理されているので、住民の健康と生活環境は守られていると考えている。協定については、試運転状況を見ながら検討を進める。

九十九沢大伸工業との公害防止協定締結の進捗は

加藤議員 産廃施設沈砂地下流の沢の水質が悪化してきて、亜鉛が基準値以下ではあるものの漸増しており、沢は目視でも汚れてきているとの声がある。協定締結の進捗はどうか。

町長 事業者へのコンタクトを取りながら締結するべく努めている。

文書提供制度を町でも実施を

加藤議員 県では、行政文書の写しの提供に係る県民の利便性の向上を図るため、平成20年4月1日から「文書提供」が始まっている。住民に密着している町こそ即、実施すべきと考えるがどうか。

町長 近隣市町村の動向、制度導入に向けた文書管理のあり方などを見据えながら検討する。

本町のブロードバンド化の方向は

加藤議員 雫石のインターネット環境整備は遅れており、特に大村地区の利用者は、不便を感じている。今後どのような方法で、地域のブロードバンド化に取り組むのか。

町長 本年度中に仮称「雫石町地域情報化計画案」を策定し、2010年までにブロードバンドゼロ地域の解消を目指し整備促進を図っていく。

加藤議員 議会の様子をインターネットで流すことにより、好きな時間に傍聴でき、町政への関心も高まるのでは。

町長 議会サイドで検討されたい。その方向を見て予算等必要な検討をする。

質問者／
すぎさわとしあき
杉澤敏明
議員



土地利用計画の整合性確保を

町長／**両計画を同時に見直し、整合を図る**

杉澤議員 都市計画マスタープランと農業振興地域整備計画は、まちづくりや農業振興についての総合的な土地利用計画を定めるものである。これらの対象地域がほぼ同一となっていることから、それぞれの土地利用計画の整合性が図られる必要があるが、これらの計画の見直しに当たって、①整合性を図る具体的な取り組み方法、②都市施設等計画や開発計画など将来のまちづくりに関する土地利用の基本的な考え方、③農用地区域の見直しの基本的な考え方はどのようなものか。

町長 ①については、両計画の見直し作業を同時期に行い、整合を図る。②については、住民意識調査による意向把握をした上で、町の資源や今ある施設を有効活用し、環境や景観に配慮した質の高いまちづくりを展開する方向になるものと予測している。③については、認定農業者等地域の担い手への利用集積を基本に、農地の有効活用を図ることにより、農業生産力の向上と優良農地の保全・確保をしていく。農業利用が難しい

土地等については、周辺の土地利用状況等を勘案し、区域設定を見直ししながら、各種計画や関係法令との調整を図っていく。

災害復旧事業の進捗状況は

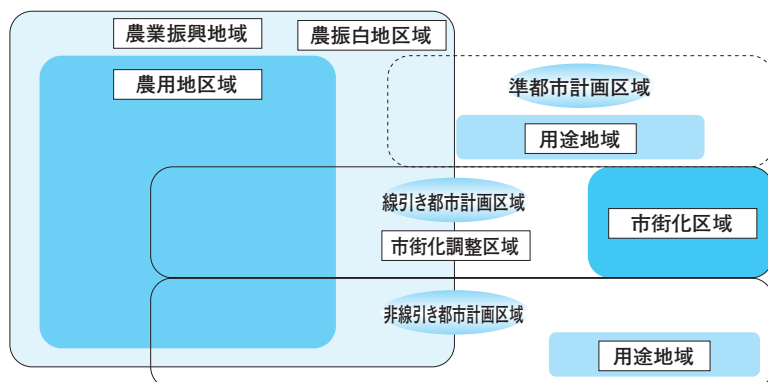
杉澤議員 昨年9月の豪雨災害の復旧事業の進捗状況（対象事業費（箇所数）に対する発注割合（発注箇所数））は、どうなっているのか。今後の執行予定と完了見込みは、いつごろになるのか。

また、南昌道路の開通が遅れることになった理由は何か。

町長 合計198カ所で、総事業費5億4,900万円の被害を受けた。昨年12月から発注を行い、現時点（6月1日現在）での発注済箇所は167カ所、発注割合は84.3%であり、このうち129カ所が完了している。未発注の31カ所については、今年10月までの間に順次発注し、年度内完成を図る。

南昌道路の復旧は、矢巾町側の災害規模が当町より大きいため、多くの日数が必要となっているが、早期の復旧をお願いしており、8月末ごろの工事完了を目指しているとの回答を得ている。

■農振法及び都市計画法による土地利用区分





質問者／
うわ の み よ じ
上野三四二 議員

後期高齢者医療制度、町民の声は

町長／「意見」はあったが、廃止や見直しの声はなかった

上野議員 町民から、後期高齢者医療制度の廃止や見直しを求める声があるが、どのように把握しているか。また4月の保険料徴収事務で、県内で1,427人の天引き漏れがあったと聞く、広域連合と市町村の連携不足や、逆に2階建て事務で過重になっていないか。

町長 町民から、制度に関して9件、保険料について23件、天引きについて22件、その他91件あったが、誠意をもって対応し理解を得た。制度の廃止や見直しを求める声は直接届いてない。当町の保険料の徴収漏れはなく、事務処理は適正に行われた。広域連合と連携を密にし適正事務に努める。

食料自給向上のための農業振興

上野議員 日本の食料自給率は39%、世界最大の輸入国となった。町の都市計画、農振計画の見直しに合わせ、雫石、岩手県を食料基地とする新たな「雫石型農業政策」を提言し発信してはどうか。

町長 今年6月設置する（仮称）しずくいし産業再生戦略会議で立案する戦略を基本に雫石型農業の確立に取り組み各方面に発信していく。農協は大きくなり過ぎたとも思うが、南部営農経済センターを強力に参加要

請していきたい。

食料価格高騰による学校給食への影響

上野議員 食材費高騰や給食の質の維持で、給食費の値上げを実施した学校が多いと聞く、各校の影響はどうか。対策として地場産比率を高めることで、食育や保護者負担の抑制にもなると思うが関係者合意をどうするか。

教育長 町内の小中校11校のうち、西根小学校1校が本年度から1食当たり6.89円、年間1人当たり200円の値上げとなったが、他の学校は現行どおりと決めた。納入業者との交渉や安価食材を探したり、献立比較や調理工夫で努力している。保護者負担増にならないよう努めたい。また、地場産品は児童生徒の評判もよく、給食指導上も大きな効果が期待できる。原材料費の抑制にもつながり、是非、安定的に供給できる体制をつくり全町的に進めたい。



生産者も招いて上長山小学校で昨年開催された地産地消給食

質問者／
伊藤哲夫 議員
いとうてつお

後期高齢者医療制度の廃止を

町長／課題はあるが細やかな対応で

伊藤議員 当町でも、4月から後期高齢者医療制度が実施されている。政府の説明不足や、保険証が届かないなど混乱が見受けられる。

矛盾を抱えるこの医療制度を廃止すべきと、考えるが見解を伺いたい。

町長 後期高齢者医療制度は高齢者の医療確保に関する法律に基づく制度のため、国会審議および厚生労働省等の動向を見据えながら岩手県後期高齢者医療広域連合が運営を行っている。

当町での保険証未着の問い合わせは45件、内再発行は18件。保険料の過誤徴収は無かったが、3月中に亡くなられた方については、年金から保険料が差し引かれる場合があることをあらかじめ通知していたため、後日確認後親族に連絡して返金手続きを行うこととしている。

今後も、この制度を後期高齢者の心身の特性に合わせた医療サービス、介護サービス

として提供することにより、生活の質を向上させる医療の適正化を目的として実施されていることから、課題はあるものの、国や広域連合の指導により町民へのきめ細かな対応をしていきたい。

本町農業の方向性を示せ

伊藤議員 わが国の農業は大変厳しい状況となっている。この中であって、今後稗石の農政を町長はどう導いていこうとしているのか。

町長 厳しい情勢を踏まえ、農業の閉塞感などを打開するべく、庁内に農業再生戦略プロジェクトを立ち上げ、5回にわたるチーム会議を経て、3月に報告書をまとめたところである。その提案内容をもとに、仮称しずくいし産業再生戦略会議を6月中に発足する予定である。国における農業政策の動向も見据えながら、関係団体一体となった取り組みで本町農業の低迷打破と活性化の実現に努めていきたい。



6月30日開かれた第1回しずくいし産業再生戦略会議



質問者／
いしがめ みつぎ
石亀 貢 議員

ふるさと納税制度の対応は

町長／コミュニティ形成推進事業に活用

石亀議員 ふるさと納税制度が4月30日改正地方税法で成立、国会の混乱で当初から1カ月ずれ込んだが、厳しい財政状況を背景に自治体の期待も大きいと言われている。

施策展開の貴重な財源確保対策として、早期に関係条例を整備、本町出身者、首都圏の出身団体、ゆかりの人々にPRを通じて「キラリ・輝く・しずくいし」のまちづくりに活用すべきと考えるが、ふるさと納税制度への対応をどう考えているか。

町長 改正法が成立後から、ふるさと納税制度への対応について検討、基本的な方向性を庁議で確認、寄付金を明確に位置づけ基金を創設、本町の文化伝統、風習など「雫石らしさ」を受けついで、基礎となる地域コミュニティ形成推進事業に活用を考えている。寄付の方々の優遇措置についても、他の自治体の例を参考にして、情報提供やPRを通じて雫石ファンを増やし交流人口の拡大や農産物の販路拡大など、活性化について検討を進めている。

職員表彰制度の創設を

石亀議員 分権時代に対応した効率的、効果的な自治体運営は必要不可欠であり、職員の意識改革や、人材育成に一層取り組んでいく必要がある。住民サービス向上の提案、政策形成能力など自治体職員は今後ますます重要と痛感する。

行政運営に精通している職員の評価の仕組みを構築し、表彰制度を創設してはどうか。

町長 全国的に職員に対する表彰規定を設けている自治体は多い。行政事務の改善、能率の向上、建設的な意見、提案を奨励し、創造力、研究心、町政への参加意欲を高め、行政運営の改善をねらいとし、職員提案制度について平成20年度内に規定の整備をする。



ふるさと納税制度への協力を呼びかける町のホームページから

あの質問は…その後どうなった

町議会で行われた一般質問の中から2項目を選び、その提言が町政にどう反映されているのかを調査しました。



スクールガードのパトロールを受けながら歩道を通学する児童たち

質 問

安庭小学校の通学路の安全確保が緊急に必要である。県道盛岡横手線の天沼橋コースと、県道雫石紫波線の御所大橋コースの一部に歩道がない。通行車両も多く危険区域であり、県に対し早急改善を求めるべきではないか。

(平成19年3月議会)

処理状況

その後

天沼橋付近の一部、98mの歩道は平成20年3月に改良工事を完了し、児童の安全通学ができた。しかし歩道全体の接続にならず、引き続き工事促進を求められている。御所大橋付近も同様である。(残り部分は平成21年度から着手予定)

質 問

県内の市町村では行政広報誌に有料広告を掲載し、広告収入による自主財源確保にむけた取り組みをしている自治体もあるが、本町でも取り組むべきではないか。(平成17年12月議会)

処理状況

その後

行政改革の検討結果もふまえた結果、平成20年の行政広報誌4月号から8枠を設け広告代理店を通じ掲載企業を募り、掲載している。そのほか町のホームページでもバナー広告を実施しており、広告収入も見込んでいる。

(平成20年4月から実施)



今年度から8枠分の広告スペースを設けた町広報誌(下段部分)

常任委員会●活動報告

調査実施日／平成20年 5月21日、6月9日～12日

調査項目／

自立のまちづくりについて、「一戸町役場」、
ふるさと雫石応援基金条例案作成

総務

総務常任委員会（大村昭東委員長）は、5月21日「自立するまちづくりについて」一戸町のまちづくりに関わる、全般的な考え方について、稲葉一戸町長の講演を聞きました。住民の自立、財政の自立、地域経済の自立、と3項目を主体に積極的な取組を行っていました。特に自治体の自立は地域の自立とのスローガンで、町内会、公民館の強化。または東北ナンバー1の図書館づくりとか、グローバルな企業の導入育成、スリムな職員体制を確立するための努力に感銘をし、我が町も当局と議会が諸課題に対応していくため、調査研修しなければと思いました。

「御所野縄文公園」視察

「一戸町コミュニティセンター」視察

「一戸町立図書館」視察

「一戸町ショッピングセンター」視察

※ふるさと雫石応援基金条例案作成のため、
総務常任委員会を6回開催しました。



一戸町御所野縄文公園を視察する委員

調査実施日／

平成20年 5月23日、6月9日、7月2～4日

調査項目／先進地調査、所管事務調査

教育民生



指定管理者から七ツ森保育所の運営状況について
説明を受ける委員

教育民生常任委員会（横欠君夫委員長）は、5月23日七ツ森保育所（指定管理者）、並びに学童保育（七ツ森小学校、雫石小学校）の運営状況について現地調査を行いました。

七ツ森保育所は指定管理者制になってから、地理的条件も相まって人気が高まり満員状態とのことでした。また、このとき要望のあった、散歩コースの舗道が一部途切れている問題について、6月9日地域整備課より、平成22年度で予定している旨の説明を受けました。

6月9日に「介護職員の待遇改善についての請願」の審査を行い、継続審査とすることにしました。

7月2～4日の3日間、石狩市においては、学校2学期制導入効果、通所授産施設の運営状況、また、奈井江町では、病院連携開放型共同利用、地域医療連携について調査を行いました。詳細は16ページにて報告しております。

閉会中の継続調査事項は次のとおりです。

- 1) 医療施設の充実について
- 2) 福祉対策について

常任委員会●活動報告

調査実施日／
平成20年5月27日、6月9日
調査項目／現地調査、所管事務調査

産業建設

産業建設常任委員会（坊屋鋪俊一委員長）は、5月27日、コテージむらの菜の花畑の栽培状況やしずくいしアグリリサイクルセンターの処理・堆肥販売状況について、それぞれ現地調査を行いました。

また、現地調査終了後に、産直施設（（仮称）しずくいし農林産物直売所）の整備状況について、所管事務調査を行い、雫石駅南口イベント広場は完成していることや、今年度は雫石銀河ステーション改築工事（来春2月20日完成予定）が行われることなどを確認しました。

6月9日には、所管事務調査を行い、産

直施設の販売方法等について、農林課長から説明を受けるとともに、意見交換を行いました。

来年度からの本格稼働に向け、今年度は、助走段階として、南口イベント広場において、土曜夕市を7月から10月まで、月1回開催していくことなどが話し合われました。

また、閉会中の継続調査は、(1)農業振興について、(2)観光振興について、(3)景観形成について、(4)特産品開発についての4項目としました。



コテージむらの菜の花畑の栽培状況を調査する委員

政務調査会で現地視察

議員全員で構成し、毎月定例会を開催している町政務調査会（会長：杉田和正議員）では、5月15日に葛根田滝ノ上地区の土砂災害の発生現場と、南畑コテージむらで栽培中の菜の花畑の現地を視察調査しました。

4月20日発生した、葛根田地熱発電所の一部施設の破損を含む周辺の災害は、巾100m、長さ200m、厚さ3mの約6万㎡の土砂崩落と、県道西山生保内線の終点付近約30mが埋塞し、滝ノ上温泉の3軒の旅館が営業できなくなりましたが、岩手河川国道事業所、盛岡森林管理署ほか関係機関により、応急対策がとられ、現在は通行止めを解除し、旅館も営業されているそうです。

また、コテージむらの菜の花は、県農

業公社と町委託事業で菜種5haを栽培しておりますが、昨年播種したもので、当日は見事に満開中の菜の花を視察することができました。

残雪の岩手山や駒ヶ岳をバックに、菜の花の景観をカメラに収める人も見られ、観光の名所にもなり、花が終われば良質の植物油原料として収穫が期待されています。



土砂の崩落により一部が埋まった県道西山生保内線などを全議員で調査

先進地に学ぶ ～行政視察レポート～

教育民生常任委員会

2学期制の調査

平成20年7月3日、北海道石狩市立緑苑台小学校において、2学期制導入メリットなどの調査を行いました。

緑苑台小学校長、教頭、市教育推進室職員の出席の下、市職員から説明を受け、教育について意見交換を行いました。

1. 石狩市の2学期制導入の経過は、次の通りで、教育長のトップダウンで実施されたとのことでした。

- ・平成15～16年度
小中モデル3校を指定・評価
- ・平成19～20年度
全小中学校で完全実施

2. 成果については、次のことが期待されるとのことでした。

- ① 従前の枠にとらわれず、授業の改善、評価のあり方、必要な行事等教育活動全般の見直しを図ることができる。
- ② 長いスパンで子どもと向き合うことにより、体験活動を重視するゆとりある学びが可能となる。
- ③ 子どもの学習活動等きめ細かに把握し、その後の学習につなげることができる。

上記2項に、期待される成果を伺いましたが、これらは2学期制導入の有無に関わらず、不断に検討・実施されるべきものであると言えます。

従って、従来の学校の授業、評価、行事などマンネリ化した教育活動全般を、見直すきっかけとするために、導入された感はぬぐえませんでした。

以上のことから、メリットの可能性を期待して取り組むのではなく、先駆者の成果をしっかり検証して判断することが必要で、さらに他の先駆者の継続

調査が必要と感じました。

また、校舎内の説明もありました。オープン方式の教室（ただし、学年毎）、図書室やパソコン室等についても、安庭小学校とほぼ同じコンセプトでレイアウトされていました。

授産施設運営状況の調査

石狩市の社会福祉法人はるにれの里が運営する知的障害者通所授産施設「ワークセンターポロレ」では、20名の利用者が40数種類のパンを製造し、直売店「ベーカリーショップこむぎっこ」で販売しています。ちなみに平成19年度の売り上げは3,300万円とのことでした。

ほかに企業からでた使用済みの袋を解体し再生する、リサイクル袋の製作もしていました。



施設内では利用者が製造するパン工場が設置され直売店で販売

病診連携開放型共同利用と地域医療連携の調査

奈井江町では地元医師会と町立病院との連携に取り組んでいます。

地元開業医は、町立病院の登録医として診療業務を行い、町立病院では開放型共同利用病院として、病床数96床の内12床を地元開業医に開放しています。診療にあたっては開業医を主治医、町立病院を副主治医と位置付け、医師間の診療情報の共有と連携による事業運営が図られています。町立病院の高度医療機器も検査施設も地元開業医が電話1本で利用できるシステムです。

また、同町では、中空知地域センター病院である砂川市立病院と医療連携協定書を締結し、それぞれの医療機関が持っている特有の機能を十分発揮しながら、その役割を分担しています。これによって、都市部の大病院へ行くことなく、自分たちの住む地域で適切な医療が受けられるようになっています。



安庭小とほぼ同じコンセプトで整備されている校舎内を見学

クロースアップ

改選後の新議員をシリーズで紹介します。議席番号の大きい16番と小さい4番の2名の議員が議員活動の抱負を語ります。

協働で創る町づくり 議会の立場で

杉田 和正 議員
(60歳・農業・無所属)



五区ふれあいサロンの会員と一緒に地域コミュニティが主催した防災講座を受講する杉田議員（本人は左端）

国庫補助金、交付税改革が進み先行不透明の中、また分権により地方の自主性、自立性の拡大方向にあり、各面において競争が激化。知恵と工夫で元気な町、村が紹介される今日、議会の果たすべき役割がなお一層重要になってきました。

元気な町づくりのため、町・町民のために頑張ります。

●プロフィール

町議会議長、総務常任委員長、県議会議長会監事、郡議長会会長、国保運営協議会会長、盛岡地区一部事務組合議員。現在 産業建設常任委員会委員、盛岡地区衛生処理組合議員組合監事。家族は母、妻、娘夫婦、孫1人。五区行政区在住。

皆さんの声の 代弁者として

前田 隆雄 議員
(52歳・農業・無所属)



奥さんの晴子さんと和牛の世話をするひとコマ

「雫石に生まれてよかった。」「雫石に住んでよかった。」誰もがそう思う町づくりがしたいと思います。

そのためには、皆さんの声を少しでも多く町政に届けることを考えております。

皆さんの声を大切に、代弁者として頑張ってまいります。

●プロフィール

現在2期目、その間一時県議会議員を務める。

西山中学校最後の卒業生、盛岡農業高等学校卒業、県立農業短期大学卒業。家族は祖父、両親と妻、娘2人、息子1人。篠崎行政区在住。



議会の傍聴から見たもの 皆さんの声を聞きました



うまさか
馬坂 ひとみさん
(44歳・篠崎行政区)

町の議会に 思うこと

小学校でPTA役員を仰せつかっている関係から、毎年のように子ども達の数が増減していくことに寂しさを感じずにはられません。

そのような中で、昨年、私の子どもが通う小学校が「学校公開」の当番校でした。

教育関係が担当という議員の皆さんが、授業の様子、子ども達の様子を熱心に参観し、子ども達のあいさつに元氣よく返事をして頂いている光景を見て、うれしく感じました。

子ども達は地域の宝でもあり、町の宝でもあると思っています。

議員の皆さんが、町には、福祉や産業など、取り組まなければならないいろいろなことがあり、住み良い町づくりのために頑張っておられることは承知しておりますが、将来を考える時、少子化対策には力をいれてほしいと思います。



きむら たみじ
木村 民二さん
(81歳・東町行政区)

七ツ森町有林に町民の 健康づくりのため、 緩い勾配の散策路を！

里山である七ツ森町有林の南向き山腹に、子どもから高齢者まで誰でも散策できる、緩い勾配の散策路を新設し、町民の心身の健康づくりのため、整備していただきたいことを熱望します。

森林浴の効用として次のようなことが一般に言われております。

- (1) フィトンチッドの効用(※)
- (2) 静寂の境にひたる効用
- (3) マイナスイオンにより心がリラックスしてくる効用
- (4) 赤外線により体だが暖まり血液循環が良くなる効用
- (5) 樹林気功の効用
- (6) ウォーキングで心身が元気づけられ足腰の筋肉も鍛えられてストレスが解消する効用

静寂こそはその人を精神的に成熟させると、ある読み物を読み感動させられたことがありました。静寂な針葉樹の中をゆったりした気分で散策したいものです。

※注釈 フィトンチッド

森の中に入ると、すがすがしくさわやかな気持ちになります。これが森の木々から発散される香り、「フィトンチッド」の効果とされています。語源はロシア語で「樹木から放散されて周囲の微生物などを殺す働きをもつ物質」を意味しています。抗菌、防腐、悪臭を消すなどさまざまな効果があることが分かっています。



さかもと りきお
坂本 利喜夫さん
(61歳・橋場行政区)

議会と 町政に思う

最近は議会の傍聴へ行く機会がありませんが十数年前、道の駅立ち上げ時は毎回のよう傍聴させて頂き検討情報を収集した頃を思い出します。今は議会だよりや広報で町政や議会の様子を拝読していますが、今般、町政にはアンケートや町政懇談会等町民の声に積極的に対応する場面が増えてきていると思う事があります。また、雫石駅や空き店舗の活用の仕方など町民の視点、観点に立った取り組みをたくさん取り上げてほしいと思います。

さらには、もっとPRのためにあらゆるジャンルのインストラクター（もしくはその道の名人）を町が認定し、必要に応じ観光客や子ども達等に雫石の素晴らしい景観の案内や釣り、山菜採り、キノコ採りなどを指導し、観光、文化等々に触れて頂き素敵な楽しい雫石町を発信出来たらと願うものです。



くろさわ まさお
在京雫石町友会会員 黒沢 正夫さん

ふるさと雫石の御明神小学校4年生の時でした。私は、岩手県主催による「童謡コンクール」に小学校の代表として出場し、第2位、そして、特別賞の二つの賞をいただきました。その時、音楽の先生から「黒沢君を童謡歌手にしたいので、ぜひめざしてほしい」と、私の家族は言われたそうです。しかし、その時、母は盛岡医大に入院しており、生活も苦しく、その話は自然になくなりました。

そして、中学校を卒業後は集団就職で埼玉県の電気工事店「飯島電気商会（株）」に就職し、20年間勤務をしました。上京してからの3年間はとりあえず帰りませんでした。帰り方が分からなかったのです。20代の頃は、好きな歌はやめられず、結婚当初まで「クラブ」でギターの弾き語りをしていた時代もありました。そして、34歳の時に独立をし黒沢電気を設立、その後は電気工事業に専念し、歌は趣味として家族で楽しんでいます。ふるさと「しずくいし」へは、子ども達が幼少の頃には「よしゃれ祭」の時期になると、毎年楽しみに帰郷しました。ふるさとの民謡、人々のやさしさ、緑の美しさ、そして、雫石の山

並み、自然の光景、将来は雫石でのんびりと過ごしてみたいと願っています。

皆様の協力もありまして、私は独立後4年目で新居を持つことが出来まして、ふるさとの同級生、そして、御明神中学校の時の先生を家に招き、一泊していただき、思い出話に花が咲きました。私のすぐ上の姉は、雫石の商店街で商売をしています。姉の家に遊びに行っていた時ですが、目の前で「雫石あねっこ」達による手作り食品を売っていました。そこで食べた物がとても美味しくて、昔の味を思い出し感激しました。今後も「雫石あねっこ」達による催しを、ぜひ続けてほしいと思います。

ふるさと「しずくいし」は最高の地です。そして、ふるさとを離れた私ですが、いつでもすぐに戻りたくふるさとですので、商売をしながら「しずくいし」の自慢をしている今日この頃です。



黒沢電気設立後、ふるさとの同級生、恩師との再会
1泊していただき、うれしかった思い出です。(お店の前にて)

黒沢正夫さんプロフィール

昭和20年生まれ、63歳。雫石町立御明神小、御明神中を卒業。昭和35年埼玉県戸田市飯島電気商会（株）入社、20年間勤務。昭和56年に独立し、黒沢電気設立。経営年数28年。

昭和50年8歳年下の妻と結婚。子供長男31歳、次男27歳。孫は長男に1女1男あり。

趣味：歌（カラオケ）、民謡（名取免状あり）、パソコン、ボウリング、スポーツ観戦

子どもたちから町議会はどんな仕事をしたり、どんな仕組みになっているのか質問が寄せられることがあります。そこで議会の仕組みについて子どもたちに分かるような議会のしくみについてシリーズで解説しています。ご家族で一緒にご覧ください。

よく使われる議会用語

とうろん 討論

ぎ あん 議案について、さんせい 賛成・はんたい 反対の意見をたたかわすことをいいます。さんせい 賛成とはんたい 反対をこうご 交互に行います。ただし、いずれか一方だけの討論の場合もあります。

さいけつ 採決

ぎ ちよう 議長が議案について、さんび 賛否をぎ いん 議員に問ひ、議案のか ひ 可否をけつてい 決定する行為をいいます。

ふたく 付託

ぎ けつ 議会の議決を要する案件について、議会の議決にさき だ 先立ってくわ 詳しくけんとう 検討を加えるために、案件をしょかん 所管する委員会に審査をいたく 委託することをいいます。

けいぞくちよう さ 継続調査

かい き ちよう 議会の会期中にさんぎ 審議を終了することがこんなん 困難な場合に、議会の議決によって、閉会中も引き続き委員会でも審査することをいいます。

いけんしよ 意見書

まち こうえき 議会が、町の公益に関することがらについて、議決により議会のい し 意思を決定して、かんけい 行政庁（関係行政庁）（国会含む）などへていしゅつ 提出するものをいいます。



平成17年11月、町政への関心を高めてもらうことを目的に初めて開催された町民議会の様子から

●今号の表紙／62号から本誌の表紙は、「まちの笑顔」シリーズでお届けいたします。「笑顔が絶えないまち」を目指して取り組んでいる皆さんを紹介していきます。今回は雫石保育所に通う元気な園児たちの笑顔です。

議会の主な動き 5～7月

5月

- 2日 県道雫石東八幡平線「館篠橋」開通式
- 4日 しずくしい軽トラック市開会式
- 12日 ドイツ友好都市青少年留学の翼歓迎会
- 15日 政務調査会
- 17日 雫石中体育祭
- 21日 総務常任委員会所管事務調査（一戸町）
- 25日 国際交流協会定期総会
- 27日 雫石商工会総会、第71回国民体育大会
岩手県準備委員会第2回総会
- 28日 第2回いわての森林の感謝祭
- 29日 町村議会議員研修会
- 31日 北上川上流水防演習

6月

- 1日 駒ヶ岳山開き
- 2～3日 八幡平山系に係る直轄砂防事業期成同盟会要望活動
- 6～13日 6月議会定例会
- 13日 政務調査会、議会広報編集特別委員会
- 7日 フラワーロード花苗植栽
- 10日 中屋敷博元町長葬儀
- 21日 第30回在京雫石町友会交流会
- 28日 八幡平山系に係る直轄砂防事業促進期成同盟会総会

7月

- 1日 岩手山山開き
- 2～4日 教育民生常任委員会研修視察（北海道）
- 6日 消防演習
- 7日 議会広報編集特別委員会
- 8～10日 産業建設常任委員会行政視察（岐阜県他）
- 10～11日 岩手県議長会政務調査会（平泉町）
- 14日 議会広報編集特別委員会
- 15～17日 総務常任委員会研修視察（北海道）

情報公開

●議長交際費執行状況

【議長交際費とは】
議長等が議会を代表し、外部との交渉、情報収集、町政協力者への謝意を表すために係る経費で、会費や香典などです。

【議長交際費内訳（4月～6月）】

月	葬祭費	お祝い、会費
4	0件 ー	5件 2万3千円
5	0件 ー	4件 2万円
6	1件 2万円	3件 1万3千5百円
総計 （1月～6月）	3万円	9万5百円

編集デスク

岩手・宮城内陸地震から1カ月余りが過ぎました。雫石町内でも災害1件が発生しております。

県道盛岡・横手線の大村地区で法面が崩れ、土砂が県道を埋めている現状であります。

町内の皆さんはもとより沢内、湯田方面の方々も困っていることと思います。

町が進めております地域コミュニティ形成推進事業は、このような災害を予知した事業であり、町内全域が自主的に我が身、我が地域を守る意識向上にもっともふさわしいと思います。安全、安心のまちづくりを、町民全員で目指したいと、つくづく考えさせられました。

（編集委員 川口一男）